

## 根木内歴史公園 観察会

2017年1月16日（水）

参加6名 西澤

ガチガチに凍った水路に足をつっこんだりして氷の厚さを確かめながら、いつものコースを歩いて行くと散策路わきの草の露が日の光を受けてキラキラ光っています。立ち止まりじっと眺めていると光の色が緑とか赤に変化してとても綺麗でした。枯れたヨシの中からウグイスの声が盛んに聞こえるのですが、姿は見えません。冬枯れの草の中にヌカキビ、イノコズチ、ヒメジソなどの立ち枯れがみられます。ヤブミョウガもすでに枯れていますが、青い実はまだ残っていました。一方湿地ではハコベ、ヘビイチゴ、タネツケバナ、カラスノエンドウ、セリ、ムラサキケマンなどが緑の葉を茂らせて春を待っている様子。葉の大きなロゼットはハルジオンでしょう。日向にはヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリが小さな花をつけています。ホトケノザの花もみられました。

田んぼのあたりにムクドリが群がっています。どうやら落穂を拾っているようです。ほかにキジバト、ヒヨドリ、カラスは見られるのですが、他の鳥は今日はさっぱり、カルガモさえも見られません。晴れてはいるのに風が強く寒い朝、鳥たちはどこにいるのでしょうかね。

芝生広場に行くと陽が良く当たる一本の紅梅はもう咲き始めています。そして枝の高い場所にオオカマキリの卵を二つみつけました。ずいぶん高い場所に産み付けたカマキリの心理は如何に？

広場のコブシはどうしたわけか芽をあまりつけていませんでした。ロウバイは満開、良いおいで早春を感じることができました。出発地点にもどって上富士川の方へカワセミがとんだのを見たラッキーな人もいたので、皆であたりを見ていると川むこうの枯草の山にモズを発見。顔のようすからこれはモズコさんかな。最後にやっと出会えました。



↑オオイヌノフグリ ヒメオドリコソウ→

## 根木内歴史公園 観察会

2017年2月13日(月)

参加5名 西澤

空気は相変わらず冷たい朝だが空は真っ青、風はさほど強くない。ミクリ・キショウブなどはすっかり枯れ、水面を覆っている。立ち枯れ状態のヨシ原の向こうからさかんにムクドリの声が聞こえてくる。園路下の山側湿地の通路には、ムラサキケマン、ハコベ、タネツケバナ、セリ、ヘビイチゴなどが見られる。ムラサキケマンは以前より増えているようで、春が楽しみだ。

湿地のシンボルのようなコナラの幹にジョロウグモの卵をみつける。ピーンと張った糸も残っていた。(これを張った親はもういないのだろう)じっくり観ていたら、幹の割れ目にヨコヅナサシガメの幼虫がびっしりと固まっているのが見つかった。ちなみに、この虫は90年代頃から関東地域でも見られるようになった外来種で、刺されると大変痛いそうだ。しばらくするとモズがやってきてコナラの枝にとまった。国道側のハンノキにシジュウカラ、エナガ、メジロなどが飛んできた。

山側通路を進んでいくと木の間からガサガサと音が。見るとキジバトが斜面の枯葉の上でズルズルとすべっていた。そしてその上方にアトリが10羽ほど地面をつついて。今シーズン松戸ではアトリをたくさん見かけるが根木内公園にも来ていた。

芝生広場では満開の梅にメジロ、エナガ、シジュウカラが戯れている。やぶの中からはウグイスそしてコゲラの声、シロハラもやぶに飛び込んだ。高い木の上の方にヤマガラが何かを啜って止まっている。メジロはキリの高い枝にもやってきて実をつついたり、ホバリングをしたり、青い空に映えてとてもきれいでつい見とれてしまう。

西側の灌木にジョウビタキらしき鳥があらわれた。よくよく見るとシッポが青っぽい。どうやらルリビタキの早らしい。やぶの中に消えたり、枝にとまったりとあたりをチョコチョコして楽しませてくれた。ずいぶん以前に同じ場所にみが見れたことがあったが、今回はメス。根木内公園を忘れずにやって来てくれたことにちょっと感激。



モズ ゴジラの木  
アトリ ルリビタキ





ロウバイにカマキリの卵(左)



ヨコズナサシガメの幼虫が  
びっしりと固まっている  
刺されると大変痛い

## 根木内歴史公園観察会

2017年3月13日(月)

参加者6名 西澤

朝方降った雨で地面は少し濡れている。空は雲が多い。まず出迎えてくれたのはアオジ2羽、アベリアの生垣を出たり入ったり。その向こうのジャヤナギの下にはドバトとムクドリが群れている。枯草がよけられて土が見えている地面をさかんにつついてはいる。草の種でも落ちているのだろうか？ 虫が出てきているのだろうか？ イヌシデの木にもたくさんの鳥、確認しようとしたら飛び立った。ひょっとしてアトリ？ 湿地を進んでいくと、ムラサキケマン・セリに加えてヨモギのやわらかそうな新芽がみられた。

ミゾソバのフタバもたくさん見られる。ニワトコの若木も赤紫の葉をつけていた。日当たりの良い場所のニワトコはすでにブロッコリーのような花芽をつけているが、湿地の日陰では新芽を出したばかりのようだ。

先月コナラの幹にいたヨコヅナサシガメの幼虫はどこへいったのだろうか。捜してみたが、見つからなかった。畦にはハルジオン・オランダミミナグサ・ケキツネノボタン・ギシギシなどの葉を見つける。ヨシもしっかり新芽を出している。ヘビイチゴ・タネツケバナ・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウなどは花をつけているが、今日は陽ざしが少ないせい半分閉じたようであり目立たない。春爛漫を期待したが、少々早かったようだ。

コブシの木、今年も花芽をいっぱいつけて、上の方は少し開きかけている。すると枝にモズが留まった。ずいぶん体をふくらませてダルマさんのようなまるい体の先でシッポをふっている。メスのようだ。アオサギも川の方へ飛んでいった。

アカガエルの卵塊を探す。水が濁っていてよく分からなかったが、卵塊らしきものがいくつか見られた。田んぼにはタガラシが顔を出している。田起しの季節になると現れる植物だ。タネツケバナを見ていたら一輪ノミノフスマが混じっていた。春の準備はちゃんと進んでいる。アザミのようなロゼットを見る。ここではまだアザミは見えていないよね、ということで図鑑を繰る。どうやらオニノゲシということで一件落着。アリアケスミレはまだかと川側湿地を歩いてみたが、ギシギシの葉ばかりで分からない。来月に期待しよう。上富士川のへりでアオジ・ジョウビタキ(♂)を見る。これも体を膨らましている。今日は鳥さんたちも寒そうだ。カルガモ2羽・コガモ3羽はせっせと食事中。そんなに美味しいものは何だろう？ 上流の下水などから流れ落ちる川水には何が含まれているのか？

アセビ(馬酔木)の花がチラホラ咲いている。顔を近づけてにおいをかいでみたら、馬ではないけれど酔いそうになった。広場に行くと今年はまだ花芽をつけていないコブシの木に鳥が群がっている。アトリだ！ずいぶん長い間とどまっていたが、そのうちに一斉に飛び立った。50羽くらいだった。もうそろそろ北帰行の時期だ。シメ・ヤマガラ・エナガ・シジュウカラなども姿を見せ、ウグイス・コゲラの鳴声も聞けた。風が冷たい観察会で春の様子ではなかったけれど、鳥をじっくり楽しむことができよかった。観察会の鳥合わせでは15種でした。